



《シカゴ》1959-61年

石元泰博展—シカゴ、東京 Yasuhiro Ishimoto: Chicago and Tokyo



1998年1月13日[火]—3月26日[木]

開館時間: 午前10時—午後6時【木・金曜日は8時まで・入館は開館の30分前まで】

休館日: 毎週月曜日【月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌日】

東京都写真美術館 [3階常設展示室]

〒153 東京都目黒区三田 1-13-3 Tel 03(3280)0031 / ECカード利用 03(3272)8600

インターネット: <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>

主催: 東京都写真美術館、協力: 三菱製紙株式会社

■観覧料 京設展(1階常設展示室・2階「1980年代写真展」)一般・大学生 500/400円・小・中・高校生 250/200円

企画展 一般・大学生 600/480円・小・中・高校生 300/240円

京設・企画展共通観覧券 一般・大学生 1,000/800円・小・中・高校生 500/400円

※小学生以下は大人と同行観覧券。本館で観覧した作品は必ずしも、高松市立美術館で展示されるものではない。

※小学生未満、1歳以上の幼児は観覧料がかかります。幼児は無料になります。幼児は必ず大人と同行観覧券が必要です。



《シカゴ》1959-61年



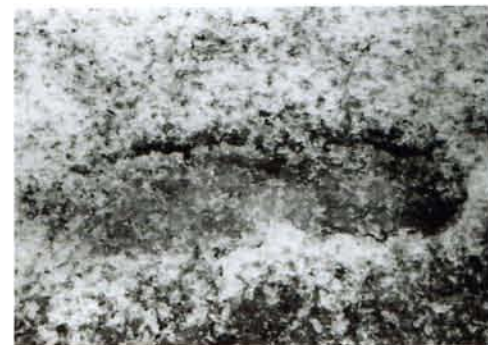
《シカゴ》1959-61年



《シカゴ》1959-61年



《流れ》1997年



《雪のあしあと》1994-95年



《水》1996-97年



石元泰博展—シカゴ、東京 Yasuhiro Ishimoto: Chicago and Tokyo

戦後日本の写真史における石元泰博の存在はひとときわ光彩を放つものと言えるでしょう。1921年サンフランシスコに生まれた石元は、バウハウスの教育理念を受け継ぐシカゴ・インスティテュート・オブ・デザイン(通称ニュー・バウハウス)の写真学科に学び、優秀な学生に与えられるモホリ=ナジ賞を2年連続で受賞するなど、在学中からその才能を発揮します。卒業後、日本に戻り作家活動を開始した石元は、その鍛え抜かれた造形感覚と、本質を追求する鋭い視線から生み出される作品によって、日本の写真家たちに強い衝撃を与え、戦後の写真界に新風を吹き込みました。

本展では様々な対象をカメラでとらえ続けた石元泰博の多彩な表現の中から、作家としての感性を磨いたシカゴ時代の写真の数々と、近作を含めた東京を舞台とした作品群で構成します。現在も旺盛な作家活動を続ける石元の世界にふれていただくことは、写真表現の原点を再考するきっかけとなることでしょう。

【略歴】 1921年サンフランシスコ生まれ。3歳の時両親と高知に帰り、'39年農業を学ぶために渡米。太平洋戦争勃発で日系人収容所に送られる。その後シカゴに移り、'48年、シカゴ・インスティテュート・オブ・デザインに入学。'53年、日本に帰り写真家として活動をはじめる。'62年から東京総合写真専門学校、桑沢デザイン研究所、東京造形大学などで写真教育に携わる。毎日芸術賞、芸術選奨文部大臣賞など受賞多数。『ある日ある所』、『シカゴ、シカゴ』、『桂』、『伝真言院両界曼荼羅』、『HANA』などの写真集を発表。'96年、文化功労者。東京都在住。

■お知らせ

対談: 石元泰博(写真家) / 森本哲郎(評論家)

1月25日[日] 午後3時—午後5時

会場: 東京都写真美術館1階ホール

主催: 東京都写真美術館(入場無料、先着200名)

*毎月第1、第3金曜日の午後2時より当館学芸員によるフロア・レクチャーを行います。



交通機関: JR恵比寿駅東口より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)、お車のご来館はご遠慮ください。

左:《東京》1954年頃

右:《東京》1981年